

あいあい通信

ATAI-TSUSHIN

2016.5 Vol. 62



Matsuda Hospital

◆院長の三言メッセージ 憂鬱な日々



桜花療養日誌

今年の2月初めから背骨～腰痛で憂鬱な日々を過ごしていたが、原因は胸椎12番目の圧迫骨折だということが判明した。気が付けば45年間にわたって腰に負担のかかる診察と連日の手術の繰り返しによって、知らない間に背骨に負担がかかっていたのだらう。早速、整形外科的治療を受けた。胸椎の圧迫の防止のため、まずは入院安静、コルセット固定、骨強化薬注射で治療した。2週間もすると、今までであった重苦しい腰背の痛みが急速に改善し、足のしびれや神経麻痺などの恐れから解放されて、見かけ上は普通の人と同じ姿で生活できることになった。しかし、飛んだり跳ねたり走ったりは厳禁である。残念ながら診察は禁止され、2月末から自宅療養となった。

そのような訳で生まれて初めて2か

月間の休息、休職を経験した。当初は働かないことが苦痛であったが、定時に追い立てられて出勤しないことがこんなに楽なのかと、休むことが病みつきになりそうであった。

季節は巡り、美しい春がきた。今年は満開の桜の期間が長かった。そして自宅の庭木に次々と艶やかな花が咲き乱れて春の息吹を満喫した。

とはいっても、何もしないで読書やテレビ鑑賞だけというのは、そうそう長く続くものではなく、同じ姿勢でいるのも苦痛を伴うものだ。コルセットを付けての読書は楽ではなく、全身が疼き何となく気が散って集中できない。まして医学書での勉強は論文の締め切りや、期限付きの原稿でなければ気合が入らないものだ。勉強は若い時に一気に気合をかけてやるべきものだ」と再確認した。

いやな災害

4月14日午後9時26分、就寝前のNHKニュースで突然、九州に緊急地震速報が出て、その後の報道は皆様ご存じの状況で震災一色となった。これは東日本大震災の時と同じ国家的災害だ。今回の地震で特異的なのは、大きな余震の繰り返しと思われるものが、実は本震の前震であったということである。今後も予測できない事態がありそうだ。早く熊本地方の皆さんの心の

平安が来ることを願わずにはいられない。

実は、震災発生前の1週間は、世界を仰天させるようなニュースがいくつもあった。ISによるテロ頻発問題とIS勢力の後退、食料廃棄禁止法、パナマ文書問題などなど。いずれも世界的大問題だが、つだけ喜ばしかったのは、ロシアにおけるガザリン宇宙滞在更新記念行事において、プーチン大統領が宇宙開発事業の関係国として、日本の名前をしっかりと述べていたことである。誇らしい気持ちになった。

そろそろ時が来た

自宅静養が2か月も過ぎると体力は低下し、いささか退屈してきて、食欲も落ちて早く日常生活に戻りたい気持ちになってきた。松田病院での動向はいろいろ報告が入ってきて、安心して療養できる環境にあったことはありがたかった。その分留守部隊が苦労しながら診療を継続してくれたことも報告があった。腰痛に対する内服もほとんど必要なくなり、そろそろ社会復帰のトレーニングの時がきた。まずは毎朝7時に起床し、今までの日常生活から始めよう。ご迷惑をかけた患者さんや関係者にはお詫びを申し上げます。近く復帰のスケジュールを立てたいと思っています。ゆつくり一歩ずつ参りますので、宜しくお願ひします。

院長 松田 保秀

特定健診・がん検診の予約を受け付けています

検診部

「特定健康診査受診券」「浜松市がん検診受診券」が、浜松市またはご加入の健康保険から郵送されている方は、当院にて特定健診および各種がん検診(大腸・

胃・肺・前立腺など)ができますので、有効期限を確認の上ご予約下さい。

検診日:月・火・水・金曜日の午前 TEL:053-448-5121(代)

年に一度の健康チェック



40歳～74歳

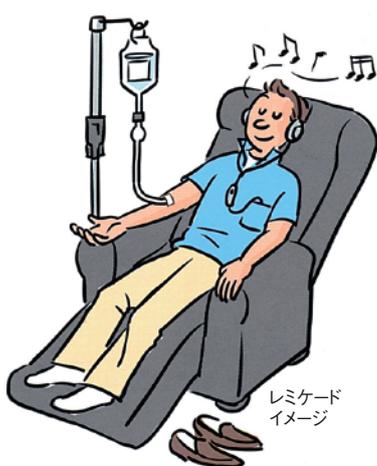
変わりつつある

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）の治療

潰瘍性大腸炎とクローン病は、かつては「入院を繰り返す、入院期間が長い、そしてクローン病では手術を繰り返すことが多い」など、治療の上でも生活の上でも難しい病気でした。しかしながら、平成8年（1996年）にペンタサというお薬が認可・販売開始されて以降、次々と新しいお薬や治療法が登場し、特に平成14年（2002年）の点滴薬レミケードの登場以降は以前に比べて入院期間が短縮し、入院そのものも減り、クローン病では手術と次の手術の間が長く空くようになりつつあります。

新しい治療（薬）や薬の使い方

現在、潰瘍性大腸炎では、ペンタサやアサコールというお薬の用量での使用のほか、従来のステロイド療法（プレドニン）に加えて、ステロイドの減量・



レミケードイメージ

離脱のための免疫調節剤（アザニン、イムラン、ロイケリン）、血球成分除去療法の追加、より難治な場合は免疫抑制剤（プロGRAF）や抗TNF α 抗体による点滴（レミケード）や注射（ヒュミラ）の治療により、手術治療に至ることなく「寛解」（症状が落ち着いて安定した状態）となる割合が多くなつてきています。また、クローン病では適応のある場合には、狭窄（腸の中が狭くなり腸の内容物が通りにくい状態となること）や瘻孔（腸に穴が開くこ



ヒュミライメージ

と）などの治り難い病変が生じる前に、早めにレミケードやヒュミラによる治療の導入を検討するようになってきています。

手術治療について

クローン病では食事による炎症の刺激が大きく、成分栄養療法（通常食の刺激を避けてジュースまたはゼリーの

形で栄養を摂る方法）を活用していくことが重要です。先にお話ししたように、狭窄や瘻孔が生じるとお薬が効きにくくなり、治療が難しくなります。ですから狭窄や瘻孔などの合併症が起きないように、その前の段階からしっかりと治療を行うことが大切です。潰瘍性大腸炎では限られた施設で試験的に行われている、健康人の糞便を移植する試みなど、手術を回避する治療がますます盛んになってきています。

ただ、現時点では虫垂炎などから生じた腹膜炎に対する手術が完全になくならないように、潰瘍性大腸炎もクローン病も手術治療が皆無となることはないと考えられます。完全に炎症を抑える治療はないので、腹膜炎や敗血症など命に関わる感染症を併発することがないように、手術が必



副院長
中井 勝彦 Katsuhiko Nakai

要な場合はタイミングよく行うことが重要です。

症状の軽減から粘膜治療へ

また、近年は「粘膜治療」を目標とする治療が重要と考えられています。以前は症状が治まることを目標に治療が行われていました。しかしながら、症状が治まった後も炎症が再燃しやすく病状が安定しないことが問題となっていました。「粘膜治療」とは潰瘍の傷に皮がはって治ることです（皮に覆われることを上皮化するといいます）。潰瘍性大腸炎・クローン病ともに一旦「粘膜治療」が得られると、その後は再び炎症が起こる「再燃」が少なくなることが明らかになっています。

逆に、症状が治まっても粘膜の治療が得られていないと不安定で再燃が多く見られます。粘膜の治療の状態を確認する方法として、上皮化を確認する内視鏡検査が行われてきましたが、内視鏡検査の代用として便の中の血液や炎症の反応の検査（いわゆる検便です）を行い、その結果により治療法を選んでいくことも行われ始めています。新しい治療薬を用いることや「粘膜治療」を目指すことにより、さらに「再燃の少ない、入院の少ない、手術の少ない」治療を目指していきます。

新入職員紹介

4月より新入職員を迎えフレッシュな体制でスタートしました。ここで一部ご紹介いたします。

星野 知佳（病棟看護師）



5月から病棟に配属された星野です。今まで他施設で病棟に3年、訪問看護に2年携わりまし

た。久しぶりの病棟勤務に緊張しています。急性期・専門病院での看護には不安なことがたくさんあります。一生懸命勉強して、患者さんに安心安楽を提供できる看護師になりたいです。

榎木 友里子（手術室看護師）



入職したばかりで、まだまだ不慣れで分からないことばかりですが、スタッフの皆さんに指導

していただきながら日々学んでいます。一日でも早く新たな環境に慣れ、安全でかつ確実な看護を提供できるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いたします。

竹上 あゆみ（外来看護師）



4月から内視鏡室で働くことになりました。今までは豊橋の総合病院で5年間、呼吸器内科・

血液内科と整形外科病棟に勤務してきました。消化器外科は初めてですが、松田病院は勉強会や新人教育もしっかりしているため、皆さんと早く一緒に仕事ができるよう勉強していきたいと思っています。

笠見 秀美（病棟看護助手）



事務職の経験しかありませんでしたが、看護助手の仕事を知り微力ではあります

が経験を積んできました。今までの経験を少しでも生かし助手としての業務を効率よく行うこと、患者さんへ優しい言葉で寄り添い、入院生活が快適に過ごせるよう環境を整えることを心掛けて努めていきたいと思っています。

鈴木 美輪（医事課事務）



医事課に配属となりました。鈴木です。業務に関して分らないことや不安なことが多くです

が、先輩方が丁寧に教えてくださいます。素敵な環境で働くことができます。とても嬉しいです。一日でも早く正確な業務ができるよう努力していきます。

原 麗子（事務部事務）



はじめまして、今年度より事務部に入職致しました。原麗子です。事務室にてお仕事をさせて

いただきます。松田病院の縁の下で力持ちとなれるよう、精一杯頑張ります。社会人一年目でまだまだ未熟な部分ばかりですが、皆様のご指導よろしくお願致します。

医師紹介

杉澤良太 医師



- 1 出身地 2 血液型・星座
 - 3 医師になった動機など
 - 4 趣味・ストレス解消法
 - 5 浜松の印象
 - 6 読者へのメッセージ
- 1 静岡県伊豆の函南町
というところでは、
2 A型・おとめ座
3 医師になった動機は、
分かりやすい形で人の役に
立つ仕事がしたいとい
う単純な理由です。所属
は浜松医科大学で、医師
免許を取得して11年にな
ります。まだまだ未熟者
ではありますが、浜松の
医療のお役に立てるよう
今後も精進して参りま
す。
- 4 趣味・ストレス解消法
は運動です。ジョギング
なども良いですが、時間
ができた時には山を走る

トレイルランを行っています。富士山には毎年登っています。最近は登頂までの時間が徐々に伸び、体力の低下を自覚しています。

5 幼少時から浜松は食の街というイメージがありました。実際、浜松に
来てからは、うなぎ・餃子等のグルメの影響で体重が増加しています。

6 私の専門は血管外科です。血管の病気である足の静脈瘤は、胃腸の疾患に比べると放置されることも多いのですが、こむらがえり・浮腫により生活の質が低下する原因ともなります。重症の場合には手術が必要となりますが、軽症の場合は弾性ストッキングの着用だけで生活がグッと楽になることがあります。気になる方は是非一度ご相談ください。

杉澤医師は火曜日の血管外来を担当しています。お電話にてご予約ください。

健康講座のおしらせ

第4回「腸内フローラについて」

〜菌と仲良くして人生の勝ち組になりましょう〜

腸内フローラとは

私たちの腸内にはたくさんの細菌が住みついています。これらを腸内細菌といひ、その数は100種類以上、個数は約100兆個にもなります。特に回腸（小腸の終わり）から大腸にかけては、多種多様な腸内細菌が種類ごとにまとまり、びつしりと腸内に壁面を作つて生息している状態です。

この様相は、まるで植物が種類ごとに集団を作つて群れている花畑の様子とも例えられ「腸内フローラ」（腸内細菌叢）と呼ばれています。



講師：副院長 川上和彦
日時：平成28年6月26日
（日曜日）
午前10：00～12：00

場所：松田病院 患者食堂

お電話または院内備え付けの専用紙にてお申し込みください。参加は無料です。

編集後記

このたび、当院に通院されている患者さんからのご寄附で、3号館1階待合室のソファを購入いたしました。これまで古いソファや会議室用パイプ椅子を院内から寄せ集めて使用しておりましたが、ソファを統一したことにより、きれいで安全な待合室となりました。この場をお借りして職員一同お礼申し上げます。



広報委員会 渡部真一

診療のご案内

●患者さんへお願い● 月1回、必ず保険証の提示をお願いいたします。

■ご来院の際には事前に予約をお取り下さい

◇ご予約はお電話でも承ります。◇受診当日のご予約も可能な限り承ります。
外来診療は予約の方を優先させていただきます。予約のない方はお待ちいただく時間が長くなる場合があります。※急患の方はこの限りではありません。

胃腸・肛門外科	受付時間	月	火	水	木	金	土
	8:30～11:30	●	●	●	●	●	
	8:30～12:00						●
	14:00～16:00	●	●	●	●	●	

その他の診療科	受付時間	月	火	水	木	金	土
IBD(炎症性腸疾患)外来	8:30～11:30				●		●
ヘルニア外来			●				●
排便機能外来					●		●
内科相談				●			
泌尿器科相談			●				
ストーマ外来	11:00～11:30			●	●	●	●
女性専門外来	14:00～15:00	●					
	10:00～11:30		●				
血管外来	14:00～15:30		●		●		



特定医療法人 松田病院
社団 松愛会

〒432-8061 浜松市西区入野町753番地
TEL.053-448-5121(代) FAX.053-448-9753

JR=浜松駅下車 タクシーで10分 高塚駅下車 タクシーで5分
バス=浜松駅バスターミナル5番ポール(宇布見、山崎行)乗車
東彦尾または西郵便局下車 徒歩5分 駐車場 180台

E-mail cra@matsuda-hp.or.jp
ホームページ https://www.matsuda-hp.or.jp

(発行/松田病院広報委員会)